

学ぶ

キャリアファイル

複合施設の総合プロデューサー



「図書館は公園」挑戦続ける

岐阜市の複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」。その中核となる市立中央図書館は、地域に寄り添い、地域と共生する図書館をうたう。建物の斬新な内装と、開かれた空間。本棚の前で読み聞かせをする親子連れ…。従来の図書館と異なる光景は、総合プロデューサーの吉成信夫さん(64)が描く「地域とつながる図書館」の姿だ。

みんなの森 ぎふメディアコスモス 吉成信夫さん(64)



「みんなの森」の総合プロデューサー 吉成信夫さん

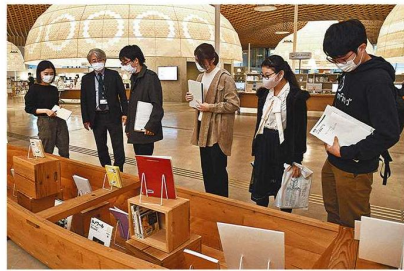
「われわれのつなぐ図書館は公園だ。自由に使うてもらえばいい」。力強い言葉がボンボンと飛び出す。岩手県で子ども向け施設の運営に携わっていた吉成さん、図書館に関わるきっかけは、2011年の東日本大震災だった。

津波で壊された都市の復興事業。街の中心に置かれた図書館を目にし、人々が交流する場としての重要性に気がついた。「次は図書館の運営をしたい」。そう考えていたとき、岐阜市が図書館長を公募しているのを知った。

図書館の運営は初めてだったが、子どもと関わる経験は豊富にあった。館内放送のラジオ番組まで作ってしまう「子ども司書制度」。中高生が悩める思いを書き込む掲示板。一五年に館長に就くと、次々と新しい企画を打ち出していた。

館内では、子どもたちがはしゃぎ、泣き、笑うのを受け入れる。「これまでの図書館ほど子どもの声を聞きと捉えていなかった。親子連れには行きにくい場所だった」。あまりに騒がしくしている場合は、他の来館者が迷惑する子ども家族だけでなく、周りの大人が一緒になつて子どもを育てる。

よしなり・のおお 東京都出身。コンサルティング会社などを経て39歳で岩手県へ移住。子どもの居場所づくりを目指す私設学校「森と風のがっこう」(葛巻町)や県立児童館(一戸町)の運営に携わる。2015年4月、岐阜市の公募に応じ、市立図書館の館長に就任。同年7月、中央図書館や市民活動交流センター、ホール、ギャラリーなどからなる「みんなの森 ぎふメディアコスモス」が開館し、19年7月に来館500万人を達成。20年5月から総合プロデューサーを務める。



長良川鵜飼の鵜舟を模した本棚も。吉成さんから解説を受ける学生スタッフ。いずれも岐阜市司書の市立中央図書館で

地域のつながり 大切に

取材レポート 池内友音(愛知教育大3年) 「大事なことは全部人の中にある」という言葉が印象的だった。吉成さんは広く人とつながり、恐れることなく何もないところからつくりあげていかっこといい。その姿が館内の雰囲気表れていると感じた。岡田彩花(名城大4年) 今まで持っていた、静かで整然とした図書館のイメージが大きく変わった。図書館=公園。「寝ててもデートしてもいいから、ここにすることが安心だと思ってもらえる場所になりたい」という言葉が心に響いた。榊原歌穂(椋山女学園大4年) 一人一人が「自分ごと」として関わり、みんなの居場所になる図書館。地域を通じ、子どもが自分を表現しながら成長していける場所と感じた。私もワクワク感と安心感を兼ね備えた対人関係や場の雰囲気づくりを意識した。坪井佑介(愛知県立大4年) 厳かな雰囲気でも子どもや親子連れが入りにくい日本の図書館。吉成さんは北欧や米国を参考にし、誰もが気軽に入れる公園のような遊び場、交流の場につくり変えた。従来の考えに縛られない姿勢を見習いたい。古川穂高(中部大4年) シビックプライドの基盤は「人と人、人と街のつながり」。つながりが深いからこそ、できる取り組みがある。人間関係も同じだ。たくさんの人と関わり、信頼関係を培い、共に支え合える関係を構築していきたい。

「人生を費やす価値があると思える」と。 就任当初、吉成さんが描く新しい図書館像に職員が必要とされるために積極的、より深く地域と関わっていくことが大切」と吉成さんは語った。そこで重視しているのが「シビックプライド」といふ考え。人々が地域に愛着を持ち、楽しく豊かに暮らし続けていく原動力となるような思いのことだ。 「10年、館内に専用のコーナーを設けた。岐阜マナー1田圃(田圃)形戦略」 「ナリワイをつくる」。 本棚には地域の魅力を伝え、生き方のヒントとなるような本が並び、遊び場を紹介する本のよう。館内に案内しつづけた吉成さん、「人と人のつながりを大切にしたい」と。学生たちにも楽しんで生きるためのヒントをくれた。

「みんなの森」をめぐって、財源などから材料購入費などの予算を削減した百何体もある。図書館が地域に必要なとされるために積極的、より深く地域と関わっていくことが大切」と吉成さんは語った。そこで重視しているのが「シビックプライド」といふ考え。人々が地域に愛着を持ち、楽しく豊かに暮らし続けていく原動力となるような思いのことだ。 「10年、館内に専用のコーナーを設けた。岐阜マナー1田圃(田圃)形戦略」 「ナリワイをつくる」。 本棚には地域の魅力を伝え、生き方のヒントとなるような本が並び、遊び場を紹介する本のよう。館内に案内しつづけた吉成さん、「人と人のつながりを大切にしたい」と。学生たちにも楽しんで生きるためのヒントをくれた。